



企業名：ハイコムウォーター株式会社
所在地：熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陰3032
事業者：甲斐 文祥
設立：2013年
サイト：<https://hicomwater.co.jp/>

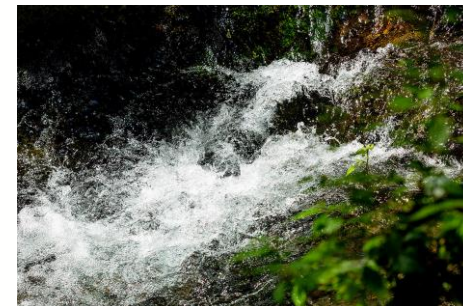
南阿蘇の水を通して、熊本の可能性を伝える。

伴走支援デザイナー：吉本清隆デザイン事務所・吉本清隆



アイデンティティ/事業を突き動かす内発的動機

2013年に、熊本で通信事業や不動産事業など幅広く展開するハイコムグループから、水の事業に特化したハイコムウォーターを立ち上げた甲斐文祥氏。そのきっかけは、宅配水事業でメインの取引先となっているプレミアムウォーター株式会社との縁でした。熊本の誇りの1つである南阿蘇村の水を全国へ。南阿蘇村の貴重な資源でもある天然水は、新たな地方創生モデルとなる可能性を秘めていました。さまざまなステークホルダーのつなぎ役を担った甲斐氏は地元住民説明会を丁寧に行い、地元の雇用が増えることなどを伝え、工場稼働のために尽力しました。現在、社員の7割を南阿蘇・高森・近隣市町村の出身者が占め、ウォーターサーバーの契約者は毎年右肩上がりが増え続けています。そして、2021年に熊本城復興支援ボトル「KUMAMOTO CASTLE WATER」の販売をスタートしました。



南阿蘇村の白川水源

ビジョン

水源地である南阿蘇を全国にプロモーションし、地域活性化に貢献することが、ハイコムウォーターが描く未来像です。「熊本といえば、南阿蘇の水」というイメージを発信し続け、水事業が発展することで地元の雇用を増やし、水源地为観光資源として観光客を誘致することなどを目標に掲げています。また、地元の方も含め、工場見学を通して水に関する啓発活動や地下水保全活動を推進しています。

強みや特徴

日本でも名水と知られる南阿蘇の水源を確保していることが、最大の強みです。また、天然水本来の味わいをお客様に届けるために、加熱処理ではなく非加熱処理を採用しています。多くの方に安心しておいしい水を届けるために、宅配水事業、BtoB向けのオリジナルペットボトル事業、観光客向けに店舗へ卸販売を行う「KUMAMOTO CASTLE WATER」など、多種多様な販路を活かして事業を展開しています。



南阿蘇の大自然

経営課題

ハイコムウォーターとして熊本県内への事業展開が軌道に乗ってきた時、更に多くの方へ南阿蘇村の水を届けるために、小型ペットボトルで新たなオリジナル性のある商品開発を行うことになりました。通常のペットボトル容器ではなく、独自性の高いデザインの容器を採用し、熊本の観光を盛り上げる付加価値の高い商品を目指しました。熊本といえば「水」と「熊本城」、熊本のシンボルでもある熊本城天守閣の形状をしたペットボトルの商品を開発することに。熊本と南阿蘇村をPRできる商品として、観光客をターゲットに販路へのアプローチを検討する中、その販売戦略に関する協議は難航します。お客様に付加価値を感じていただける商品にするためにどのように商品イメージを展開していくか。その時に、吉本清隆デザイン事務所へ伴走支援を依頼し、吉本清隆氏からデザインの提案を受けることとなりました。

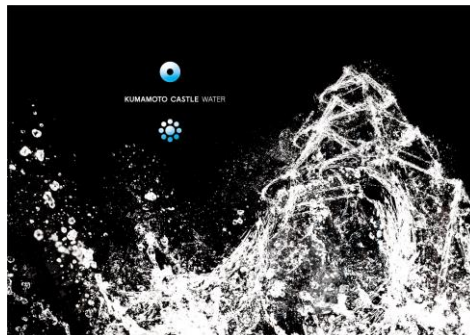
デザイン経営での解決策

「デザインが大事だからこそ、信頼できる方に吉本さんを紹介していただきました。吉本さんはこちらの想いを汲み取り、寄り添いながらデザインしてくれました。可能性の幅を見せるために、毎回いくつかの 패턴のデザインを提案してくださり、どのデザインにも驚きがありました。」と語る甲斐氏。メインビジュアル及びラベルデザインには、撮影した水滴のレタッチで勇壮な熊本城を表現したスタイリッシュなビジュアルに加え、熊本城にゆかりのある「蛇の目紋」「九曜紋」の2種の家紋を水をイメージしたグラデーションカラーで表現する提案をいただきました。容器の形状が複雑なため、デザインのみではなくラベルの設計の打合せから参加していただき、一番の課題であったラベルデザインが完成しました。POPや製品箱のデザインも全て吉本さんに依頼したことで、高付加価値の「KUMAMOTO CASTLE WATER」のブランドイメージを作り上げることができました。

アウトプット



「KUMAMOTO CASTLE WATER」ラベルデザイン



「KUMAMOTO CASTLE WATER」メインビジュアル

これから

「KUMAMOTO CASTLE WATER」は販売開始後2年が経過し、累計10万本を突破。商品の売上1本につき10円を熊本城災害復旧支援金に寄付しています。これからも、国内、海外の方々に「KUMAMOTO CASTLE WATER」をお届けし、継続して収益の一部を寄付していくことで、事業を通じて社会貢献活動も引き続き行っています。そして、熊本の観光を盛り上げる商品として、熊本を代表するお土産となることを目指しています。